

令和5年度 卒業証書・修了証書授与式

告辞

幾度となく繰り返した寒暖の変化も落ち着き、春めいてきた津幡で本日、第55回卒業証書授与式並びに第23回修了証書授与式が無事挙行される運びとなりました。

205人の本科卒業生、27人の専攻科修了生のみなさん、おめでとう。

皆さんの卒業・修了を本日、ご来賓の皆様、在校生、教職員が一堂に会して見送ることができることは、私たち全ての者にとって、大きな喜びであります。

また、卒業生・修了生を長年にわたり励まし支えてこられたご家族・関係者の皆様には心からお慶び申し上げるとともに、深く感謝いたします。

本日の卒業生の中には、マレーシアからの留学生ダニッシュさん、インドネシアからの留学生デイビットさん、モンゴルからの留学生ムルンさんがおられます。故郷を離れ、異なる文化、慣れない言語や気象・地震など様々な困難のなかでも勉学に励まれ所定の課程を修めたことに、心からの賛辞を送ります。

中学校卒業後、多くの同級生とは異なり高等教育機関である本校を選んだ当時の思いに、本校は応えることができたでしょうか。実践的創造的な研究開発型の技術者を養成するに足る、早いうちからの専門教育、多くの実験・実習やインターンシップ、また力試しの場でもある様々なコンテスト等は、新鮮な体験であるとともに、初めのうちは苦勞し、戸惑いもあったかもしれません。あるいは、家庭を離れて学生寮での共同生活というのも貴重な経験であったと思います。

今日ここに卒業・修了を迎えられたということは、5年間、7年間の経験を得て皆さんが大きくかつ逞しく成長したと認められたことを意味します。また、入学時の上級生から現時点の下級生という幅広い年齢層の若者とともに学んだ経験も、忘れるべきではありません。

明確な、具体的な根拠を伴った自覚にまでは未だ至っていないかもしれませんが、それぞれの経験と成長に自信と誇りをもって、次のステップを、皆さんの人生の本番へのスタートを切ってください。

ところで、皆さんがこれから進んでいく将来の社会については、少々厳しい表現で語るなければなりません。昨年この式では、ロシアのウクライナ侵攻、資源・エネルギー・食料の確保競争などに触れて、グローバル化の進展と同時に、場面や要素ごとに見ればむしろ逆行するように見える事象が多発するなど、複雑かつ厳しいことに触れたのですが、その傾向はさらに強まっています。

例えば、様々なところで製造業の国内回帰が言われますが、最先端の半導体産業で九州そして北海道に大きな光が見えています。本校と同じ国立高専機構傘下の現地の高専が大きく関わっていることは皆さんもご存じでしょうし、誇りに思っています。我が国のエレクトロニクス産業が世界を圧倒的にリードしていた平成初めの頃を知っている世代からすれば、懐かしい高揚感すら覚えるかもしれません。

しかし今回は、国内に製造拠点を設ける・設けなければならない理由が違います。複雑な国際政治経済状況のなか、生存に不可欠な先端半導体の確保戦略としての光です。単なる技術力の結果ではなく、生き延びるための連続的な技術刷新が、ニーズを牽引するほどの技術開発の継続が、併せて求められる国内回帰です。

一方、資源とか物流全般をみればどうでしょうか。中東での対立激化は石油資源の供給と、欧州アジア間の物流経路に巨大な影を落としています。我が国の近くでも様々な緊張が高まっていると言え、指標として金の価格など見ても安心とは程遠い状況のようです。しかしそのような中でも株価上昇が顕著であるなど我が国経済は勢いよく見えます。

良い・歓迎すべき状況であるというより、国内回帰を成功させ、資源・物流の困難を乗り越えるための、いわば胸突き八丁が現在なのかもしれません。国内にいながらも、求められるのはグローバルに通用する感覚と能力なのです。

もう一つ、皆さんが担う未来に大きく響きそうなことが、出生数の相も変らぬ急減です。平成一桁台に年120万人程度だった出生数が100万人に届かなかったのが30年程経た2016年、そこからたった7年の昨年が75万人台。皆さんが担っていく時代は、皆さんの部下・後輩が圧倒的に少なく労働力も足りない状況を、技術で代替しなければならない時代です。人を代替する技術がどんなものかは判りませんが、少なくとも人の思いとか温かさに及ぶはずであり、皆さんが今後創り出す技術はそうあって欲しいと思います。ビッグデータとかAIなどを利用しつつも、最後は人として判断・選択を行っていただきたいものです。

最後になりましたが、能登半島地震のように我が国の自然環境は決して甘いものではありません。自然の猛威・脅威を技術と弛まぬ努力でかわしやり過ごしてきたことが、今日までの長い我が国の繁栄の歴史です。これからも様々な災害はあることでしょう。また自然環境ではない政治経済社会の面でも、様々な災害級の危機は繰り返し襲来するでしょう。対抗可能なら立ち向かい、可能でなければかわし、いなして、未来を繋いでいってください。

本校は今年で創立59年。本科卒業生は既に9000人を超えています。国内外の様々な分野で活躍し社会を担っている先輩に続いて、皆さんも勇躍飛翔してください。その力を皆さんは既に身につけています。このことを訴えて、お祝いの言葉とします。

令和6年3月19日

石川工業高等専門学校長

鳴倉 剛